

令和7年度 学校関係者評価結果

令和8年3月5日実施

兵庫県立姫路北高等学校

	評価項目	評価				
		A	A	B	B	A
1	姫路北高等学校の教育目標は、教育方針に照らして適切であり、時代の要請に込えている。	A	A	B	B	A
2	姫路北高等学校の各教育重点目標は、教育目標を達成するために、適切に設定されている。	A	A	B	B	A
3	姫路北高等学校の各教育重点目標は、達成されている。	A	A	B	B	B
4	職員による学校評価や、生徒及び保護者へのアンケートの内容や方法は適切である。	A	A	A	B	B
5	職員による学校評価や、生徒及び保護者へのアンケートに対する分析結果は適切である。	B	A	A	B	A
6	学校評価の分析結果に基づいて出された課題や改善の方向性は適切である。	B	A	B	B	A
7	学校評価の取り組みを通して、学校組織の活性化が図られているといえる。	A	A	B	B	B
8	姫路北高等学校の教育活動によって、生徒は生きる力を獲得し、充実した学校生活を送っている。	B	B	B	B	A
9	姫路北高等学校の教育活動は、保護者の理解を得、保護者の願いに込えている。	B	A	B	B	A
10	姫路北高等学校は、地域に対して積極的に情報を発信し、開かれた学校づくりを推進している。	B	B	B	B	B

評価 A:よくあてはまる B:どちらかというにあてはまる C:どちらかというにあてはまらない D:あてはまらない

ご意見およびコメント

○時代の流れは非常に速いようです。定時制高校の役割も年々変わっていくように思われますが、負けないよう頑張ってください。

○いろいろ努力されてるのを感じられたので、これからも頑張ってください。

○「学校が楽しい」「学力がついてきた」と回答する生徒の割合が増加している(問1・2)。こうした傾向には、「興味・関心をもてる教育課程になっている」と回答する教員の割合が増えている(問21)ことが影響している可能性がある。生徒の学びへの実感の高まりには、先生方の授業づくりの工夫が成果として表れている面もあると考えられる。

○定時退勤ができていると答える教員の割合が20%増加しており、働き方改革が進んでいることがうかがえる。

一方で、打ち合わせや検証の時間が適切であると答える割合が低下している(問18・19・23・31など)。業務効率化が進む一方で、必要な協議・検証の時間確保とのバランスに課題があるといえる。

○防災管理計画の整備・活用について、肯定率が低下しており(問28)、生徒・教職員の安全確保の観点から、計画の見直しや周知の徹底が求められる。

○1年間、お疲れ様でした。アンケートから、昨年度以上に生徒や保護者の方々と丁寧に関わっておられることが伝わってきました。